

## 学長のコラム

### 論文を書くことの意味

医学検査学科とリハビリテーション学科の卒業研究論文集に「論文を書くことの意味」というタイトルの文章を寄稿した。医学や生命科学の進歩は、日々発表される多数の論文のエビデンスによって支えられている。生命科学の世界で最もインパクトを与えた論文と言えば、ジェームズ・ワトソンとフランシス・クリックによる「DNAの2重らせん構造モデル」に関するわずか1頁余りの論文（Nature, 1953）が頭に浮かぶが、教科書を書き換える様な論文だけが意味を持つわけではない。検査・看護・リハビリの各領域においても日常の様々な活動内容（検査技法、看護手技、リハビリ施術など）は、論文発表で積み重ねられてきたエビデンスが基礎となっている。学生諸君は卒業研究を通して研究の重要性を認識するわけだが、それとともに論文を書いて公表することが重要な意味を持つことを理解して欲しい。論文として文章化することで、研究の目的、方法、結果の流れが整理され、考察を加えることによって、その研究の意義が導き出され、社会に還元されるのである。

2月6日開催の大学院修士学位論文公開発表会では、5名の修士大学院生（医学検査1名、PT3名、ST1名）の研究発表を聞かせて貰った。うち2名の発表内容は培養系におけるマクロファージ機能の解析と疾患モデル動物を用いた温熱刺激の治療効果で、いずれも筋道だった分子細胞学的解析がなされ論理的な結論に達していた。他の3名の研究は、本学の特色を生かした研究内容で、食嗜好と摂食・嚥下機能との関連、自転車エルゴメーターを用いた神経生理学的解析、車イスマラソンのフォームの最適化といういずれも社会に直結した実践的な研究内容であった。5名とも質疑応答での対応もしっかりしており好感が持てた。以前に携わったことのある熊大の大学院医学教育部の修士論文審査に比べても遜色のない発表会であった。大学院生の資質とともに研究指導体制に関しても、今後さらに充実発展させるための十分な素地があると感じた。

話題は変わるが、今月中旬から本学が関連する各種国家試験が実施された。そのすべてが福岡市で実施されたが、数日間隔で各学科、専攻、別科の出発見送りが行われた。受験生諸君は、これまでに蓄積した実力を十分に発揮したものと思う。朗報を期待したい。



看護国試出発 “フレイフレイ看護” (2/15)



医学検査国試出発 “全員合格祈願” (2/18)

### 2月・3月・4月の主な行事予定

2/29 (土)	大学院一般選抜、社会人選抜（Ⅱ期）入試 認定看護師教育課程（脳卒中看護）・特定行為研修課程入試
3/2 (月)	教員対象就職指導者研修会
3/6 (金)	センター利用（後期日程）入試 大学院一般選抜、社会人選抜（Ⅱ期）入試合格発表 第2回情報セキュリティ研修会
3/10 (火)	認定看護師教育課程（脳卒中看護）・特定行為研修入試合格発表
3/13 (金)	卒業・修了式、卒業記念パーティ、 センター利用（後期日程）入試合格発表
3/16 (月)	第2回FDセミナー
3/18 (水)	银杏学園 理事会・評議員会
3/19 (木)	学内研究助成・研究成果報告会
3/25 (水)	大学教育改革推進プログラム（学長裁量経費） 成果報告会
3/26 (木)	第2回利益相反に関する研修会
3/28 (土)	春季オープンキャンパス
3/31 (火)	辞令交付式
4/1 (水)	辞令交付式 新任者オリエンテーション
4/2 (木)	入学式、実習認定式（看護学科3年） ローソン営業開始
4/3 (金)	新入生オリエンテーション（～4/8） レストラン営業開始
4/6 (月)	2～4年生前期ガイダンス（～4/8）
4/7 (火)	新入生歓迎会（メルパルク熊本）
4/17 (金)	杏友会歓送迎会（ザ・ニューホテル熊本）

### 温州医科大学（中国）からの本学訪問

1月16日（木）、中国浙江省の温州医科大学より、学生21名をはじめとする25名の方々が本学を訪問されました。竹屋学長による本学の説明、竹熊先生による日本の医療についての説明の他、授業参観（医学検査学科2年「血液検査学Ⅱ実習」）や学内見学を行いました。また、昼食時には本学20名の学生との交流も行い、訪問された方々に大変満足していただきました。ご対応いただいた皆様方には大変お世話になり、ありがとうございました。（文責：事務局長）



## 心と体の健康づくり研修会

1月23日（木）、衛生委員会において心と体の健康づくりへの取組みとして研修会を開催し、教職員40名が参加しました。昨年度の全教職員対象に実施した「セルフケア」に続き、今年度は、部下の様子を把握しうる立場の上司からのケアが非常に重要であることから「ラインケア」をテーマとし、経営者や管理職の方々を対象に熊本産業保健総合支援センターの脇山千佳子先生よりご講演いただきました。

今回の研修において事例やラインによるケアとしての取組み内容「いつもと違う」部下への把握と対応、部下からの相談への対応等について色々と学ぶことができましたかと思えます。また、衛生委員会においても今回の研修内容を参考に職場環境等の改善に向けて取り組んでいきたいと思えます。

（文責：衛生委員会事務局）



## 学生との意見交換会

1月15日（水）に「学生との意見交換会」を開催しました。この意見交換会は、学生の声を直接聴くことにより、教育方法、教育環境、学生生活支援等の改善に役立てることを目的として昨年度から実施しています。初めに杉内副学長が、将来ビジョン、三つのポリシー、熊本大生の到達目標（コンピテンシー）、アセスメントポリシー、三つのポリシーを実現するためのアセスメントについて説明され、その後、4月に実施した「学修行動調査」の結果と学生の疑問に対する対応策を基に、各学科1～2年生（13名）と崎元理事長、竹屋学長、副学長、各学科・専攻長、事務局長等で活発な意見交換が行われました。

要望の中には改善が難しいものもありますが、今後、学生の皆さんから出された貴重なご意見等を、大学の教育改革や学生生活支援に活かしていきたいと思えます。（文責：企画課）



## 第2回ハラスメント防止研修会

1月23日（木）に今年度2回目のハラスメント防止研修会を開催し、103名の教職員が参加されました。今回の研修会では「キャンパス・ハラスメント防止研修」というテーマで、私たちが身を置く大学内で起こるハラスメントのリスクという観点を中心に社会保険労務士の森光子先生にご講演いただきました。

教職、事務職それぞれの立場で注意すべきことなどを具体的に示していただき、学びを深められたように思えます。

（文責：ハラスメント防止委員会事務局）



## 言語聴覚学専攻 国試激励会

2月14日（金）、言語聴覚学専攻4年生の国家試験受験に向けて、激励会を開催いたしました。当日は、崎元理事長、竹屋学長、河瀬事務局長、専攻の各先生方より、国試合格のための努力を労う温かい励ましや試験当日に向けての心構えなどの激励のお言葉をいただきました。

先生方からのお言葉をいただき、4年生たちは国家試験合格に向けて気持ちを引き締めた様子でした。（文責：言語聴覚学専攻 宮本 恵美）



## 国家試験受験へ出発！

理学・作業療法士国家試験（2/23）で学生が受験する国家試験が終了しました。合格をお祈りしています。（撮影：企画課）



2/13（木）保健師



2/14（金）言語聴覚学専攻



2/18（火）医学検査学科

## 私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科 言語聴覚学専攻の井崎 基博 准教授に投稿していただきました。

ショッピングモールのイベントで古い師から顔を見るなり「あなたは放浪の旅の末に野垂れ死ぬ」と言われた。私が驚いたのは、大学時代バックパッカーだったことを見抜かれた（かもしれない）ことである。日本にいる限り全く社交的でない私だが、言葉の通じない現地のおじさんとなら意気投合できるのが、バックパッカーの醍醐味だと思う。ウズベキスタンで見知らぬ人の結婚式に飛び入り参加させてもらったり、イランではパトカーで観光案内してもらったり、本当にいろいろな人のお世話になった。だからこそ、日本にやってくる外国人には優しくしようと心掛けている。先日、本学に韓国の学生がやってきた。旅で培った下手な英語を堂々と話す能力を駆使して ST 専攻の施設説明をした。最後になって彼らはとても日本語が上手なことに気づいた。最初に確認しておけばよかった。